第26回

発掘展

～子どものための考古学～

永井遺跡から出土した弥生土器

久留倍遺跡から出土した弥生土器

四日市代官所跡から出土した萬古焼

見どころ説明
7月26日（水）
10:00～12:00
（当日、自由参加）
小学6年生以上対象

令和5年7月26日(水)～8月20日(日)
午前9時30分～午後5時
月曜日・第2火曜日休館
四日市市立図書館　2階展示コーナー

縄文時代の西野遺跡（約2600年前）

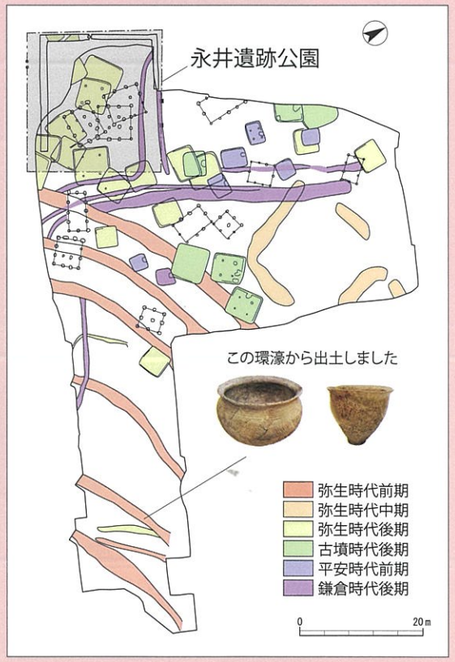
南小松町の西野遺跡では、縄文時代晩期の土器棺（土器を用いた棺）が発見されています。縄文時代には土器を棺として用いたお墓の例が愛知県や奈良県では多数発見されていますので、西野遺跡でも同様に土器を棺として利用したものと考えられます。棺は長さ60㎝、幅46㎝の大きさでした。

出土した土器棺

土器棺の検出状況（東から）

弥生時代の永井遺跡（約2400年前）

尾平町の永井遺跡では、弥生時代前期の集落を取り囲む環濠が確認されており、朝鮮半島を経由して大陸から伝わった水田稲作農耕文化がここに到達したことが分かります。環濠の中からは、生活に用いられた煮炊き用の土器や石斧などが多数出土しています。発見された土器の中には、直線の区画や渦巻などの縄文土器の流れを組む多彩な模様で装飾が施されている鉢もあり、縄文時代と弥生時代の文化に連続性のあることが分かります。



永井遺跡主要遺構配置図（1：1000）

永井遺跡調査区東部（南東から）

弥生時代の久留倍遺跡（約2000年前）

大矢知町の久留倍遺跡では、弥生時代（約2000年前）にあったムラ（集落）も確認されており、弥生時代の人びとが生活に使っていた道具類が数多く出土しています。

弥生土器　壺

貯蔵に用いられた土器です。壺の表面は、模様をつけて飾られています。

弥生土器　甕

土器の下半分は、まっ黒に煤けています。土器の中にお米などを入れて、煮炊きに使ったためです。

弥生土器　高坏

食べ物の盛り付けやおそなえに用いられた土器です。

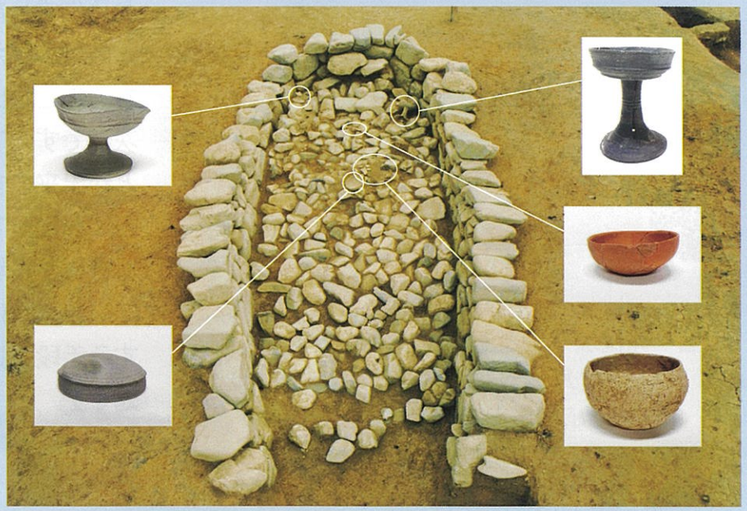
弥生時代の久留倍遺跡の想像図

古墳時代の西野古墳群（約1400～約1300年前）

南小松町の西野遺跡では、７世紀になると、古墳群が築かれました。

なかでも、最も大きな８号墳は横穴式石室を主体部にもつ直径6.6mの円墳です。石室は幅1.2m長さ2.8mの範囲の床面に小さな礫を敷き詰められていました。これらの石材は内部川の河原から採取されたものと考えられます。

８号墳から出土した副葬品

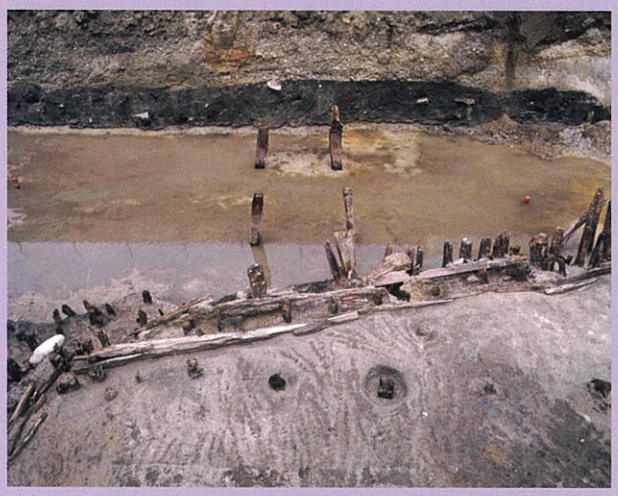


８号墳石室遺物出土状況（北西から）

江戸時代の四日市代官所跡（約410～150年前）

現在の市内中心部は、享保9（1724）年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今の奈良県）領時代を除くと江戸時代を通じて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、市内北町の中部西小学校の場所にありました。当初は、江戸と京都・大阪を往復する徳川家康の宿泊施設として設置され、防衛施設としての堀がつくられました。



代官所の堀にかかっていた橋の橋脚（手前が代官所）

明治時代に描かれた代官所の絵（水谷百碩画）
【四日市市立博物館蔵】

土師器の皿・陶器の天目茶碗・皿類がまとまって出土しました。発見された穴は、廃棄土坑（ゴミ穴）と推定されますが、安土・桃山～江戸時代（16世紀末～17世紀初）の時期の資料は、他には皆無に等しく、当初の代官所は清浄を保っている空間だったことが想像できます。

廃棄土坑から出土した食器類

コラム　3Dデータの活用

表紙に掲載されている永井遺跡出土の弥生土器の画像は、写真ではなく3Dデータから作成した画像です。写真は平面的に一方向から見える部分のみしか撮影して記録することが出来ませんが、3Dデータは3次元ですので、立体的に計測し記録することが出来ます。特に、この土器のように全面にわたって複雑な模様が表現されている場合に記録する手段として有効です。

3Dデータを計測する様子

遺跡情報
（四日市市公開型GIS）

パソコンやタブレットで
遺跡を調べてみよう！

第26回　発掘展～子どものための考古学～
◆会期　令和5年7月26日（水）～8月20日（日）
◆場所　四日市市立図書館　2階展示コーナー
◆編集　四日市市シティプロモーション部文化課
◆発行　四日市市　令和5年7月26日